



2022年5月6日

各 位

会社名株式会社 関門海  
 代表者名代表取締役社長 山口久美子  
 (コード番号:3372 東証スタンダード市場)  
 問合せ先 経営支援本部 次長 関口 弘一  
 電話番号 072-349-9329

### 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績並びに新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえ、2021年5月14日に未定として開示した2022年3月期(2021年4月1日~2022年3月31日)の通期連結業績予想を、以下のとおりお知らせいたします。

#### 1. 2022年3月期の通期連結業績予想数値の修正(2021年4月1日~2022年3月31日)

(単位:百万円)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	未定	未定	未定	未定	未定
今回修正予想(B)	2,603	△715	57	0	0円05銭
増減額(B-A)	—	—	—	—	—
増減率(%)	—	—	—	—	—
(参考)前期連結実績(2021年3月期)	2,634	△540	△317	△570	△44円21銭

(注)今回修正予想の「1株当たり当期純利益」の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2021年3月31日現在の発行済株式数(自己株式数を除く)を使用しております。

#### 2. 修正の理由

2022年3月期の連結売上高は2,603百万円を見込んでおります。前連結会計年度と同様に新型コロナウイルス感染症が変異株の出現等により、それに伴い発出された緊急事態宣言や時短要請等により断続的に営業自粛や時短営業、アルコール類の提供制限等により外食需要の落ち込みが長らく続く中、当社においても1年を通して厳しい状況が続きました。「玄品」店舗においては、ワクチン接種率の向上等に伴い感染者数が減少したことにより、11月には全店の営業を再開し店舗売上高は回復基調にありましたが、1月には変異株であるオミクロン株により再拡大に転じ再び厳しい状況となりました。一方、自家消費に対する需要は継続して拡大しておりデリバリーやテイクアウト販売のほか、店舗内へ商品棚を設置するなど物販対応も進めました。本部においても新たなチャネルを確立するため小売り・流通業界への食材販売やコラボ商品の通信販売などに取り組むとともに販売量の増加に備えるため本社工場の生産体制強化に努めました結果、未定としておりました連結売上高は2,603百万円(前年同期比1.2%減)と前年とほぼ変わらないものの下回る見込みとなりました。

利益面につきましては、店舗原価率の改善等により、売上総利益は1,526百万円(前期比2.3%減)となりました。販売費及び一般管理費については徹底したコストの見直しに努めたほか本部費の圧縮などに努めましたが、店舗等休業期間中の休業手当等の人件費や店舗の固定費等の負担がかかったこともあり2,241百万円(前期比6.6%増)となりました。以上の結果、営業損失は715百万円(前期は540百万円)

の損失)、経常利益は、営業外収入として感染拡大防止協力金等 677 百万円、雇用調整助成金 126 百万円、農林水産省等の制度を利用したことによる助成金収入 14 百万円等があったことにより 57 百万円(前期は 317 百万円の損失)となりました。また、特別損失として減損損失 44 百万円等を計上したこと等により親会社株主に帰属する当期純利益は、0 百万円(前期は 570 百万円の損失)となりました。なお、前連結会計年度については臨時休業等に伴って発生した固定費 200 百万円を販売費及び一般管理費から特別損失に振り替えております。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。

以 上